

Akatake Times

Vol. 30
(通算 第183号)

新元号【令和】が発表されましたが皆さんの予想は当たりましたか？
平成から令和へと替わり新たな時代の幕開けですね。
本号でAkatake Timesは第30号目となりました。これも皆さんの協力のお陰です。
記念すべき令和最初の社内報をお楽しみ下さい！！



『クマガイソウ』

ちょっと珍しい植物の花が庭で咲いたので、写真を添付します。
クマガイソウと言います。“熊が居そう”ではありません。
30個ぐらい咲いています。

撮影日時：2019年 4月 30日

文：技術部 開発課 渡邊さん



◆「令和」への改元

目に青葉、山ほととぎす、初鯉・・・良い季節になりました。

5月1日に改元、平成から令和へ。日本国中お祝いムード一色。私は元号についてさほどの思い入れはありませんが、過去を振り返る時、元号は便利。西暦ですと、なかなかピンとこない感じです。

我が社のゴールデンウィークの連休も、10日間という今までにない長期休みとなりました。

日頃、多忙でなかなか時間が取れない人は、大いに家庭サービスができたのではないのでしょうか。あるいは自己啓発に時間を費やした方も多かったと思います。また、休み中、大型案件の受注前段取り仕事に携わった人、工事で現場に行った人、大変お疲れさまでした。感謝いたします。

◆「平成」を振り返って

さて、平成を我が社の出来事を交えて振り返ってみます。

平成元年は、1989年1月8日からスタートしたので昭和64年は、ほんのちょっとしかなかったわけで、そのものがあつたかと思われるくらい印象が薄かったです。今から30年前のその頃、我が社は第18期の真っ最中でした。環境保全分野から食品業界を中心に生産ラインへ打って出た年でもあります。第18期の思い出の中で特筆すべきことは、国内E社経由オーストラリア向け粉体プラントの引き合いが入ったことです。約6億円という物件でした。当時とすると我が社にとってとてつもなく大型の案件でした。技術面はもとより信用面で果たして受注してよいものか、役員会を何度も開催したものでした。結果、やろう！と決断したわけですが、当時の赤堀吉弥社長も随分と悩んだことでしょう。社員を信頼し、技術を信頼し決断した勇氣に今もって敬意を表したいと思います。幾多の試練を乗り越え、お客様にご満足を頂きプラントを引き渡すことができ、トラブルもなく売上も回収。皆、ホッとしたことを今でも鮮明に覚えています。我が社は、この経験をとおして技術面はもちろん、さまざまな面で大いに自信を持ち一回りも成長したことは大変に意義ある物件でした。

商売は、時の運、人の運があろうかと思えます。

厳しい受注状況であった(確か第8期中)中防セメント固化設備の受注。第10期頃からは、セメントメーカーが油から微粉炭へのエネルギー転換に伴いハイフローC型や鉄鋼会社の高炉への吹き込み装置(高圧型ハイフロー)の相次ぐ受注。その後は、銀塩フィルム製造ライン、液晶製造ライン、リチウムイオン電池製造ラインへの参入と続き、更には医薬・食品業界への取り組み等々、振り返ると国内の重要な産業に貢献できました。また、前本拠地から現在地への移転と第二工場敷地の購入・工場建設も誠に運が良いことでした。社員の頑張りのもとよりですが、俗にいう“神風が吹く”という目に見えない“運”というものが働いている気がしてなりません。更には、副社長で退任された故林恒美氏の技術面・営業面ともどもの功績が大きかったなあと、つくづく思い出されます。全く私利私欲を捨てて、厳しい一面もありましたが会社一筋に生きた方でした。改めて感謝の念が湧いてきます。

“30年で会社は潰れる”を打ち破り、紆余曲折を経て現在48期を通過中。一歩ずつながらも着実に成長していることを実感しています。“顧客の創造をとおして永続的に発展し社会に貢献する”使命を果たしてゆこうではありませんか。更なるイノベーションの推進と神風を味方につけて！

◆「8050問題」

話は変わりますが、日本で抱えている大変重要な問題「8050問題」があります。

2018年12月に内閣府が無作為抽出した40歳から64歳までを対象に引きこもりの調査を行った結果、40代が38.3%、50代が36.2%、60歳代が25.5%だったとのこと。この値から、全国に中高年の引きこもり数は61万人いるとの推計に至っています。青少年・若年層のそれを上回る数だそうです。マスコミでしばしば見聞きするニュースで、親子の餓死や亡くなった親をそのまま放置しておくという痛ましい事態が発生しています。80歳代の親と50歳代の子の親子の関係はまさに危機の状態にあります。政府はこの「中高年引きこもり」に焦点をあてて、何らかの対策を講じていてもらいたいと思います。同時に私どもは、若年層の引きこもりにも真摯に向き合って、何を支援できるか、何を果たすべきかを考えなければなりません。引きこもりに限らず、親の介護で厳しい状況に直面している方々が大勢います。我が社でも今後直面する課題です。慈しみ育ててくれた親の恩に報いるためにも、精一杯尽くすことが大事かと思えます。そのためにも、会社としても精一杯支援していきたいと考えています。社員の皆さんも、どうか一人で抱え込まないで悩みを開示し、会社と社員同士の協力を求めてほしいと願っています。

改元に伴い、会社の過去をチョット振り返り、同時に親と子について触れてみました。

猛暑が来る前の良い季節を存分に味わってください。

ご安全に！！

代表取締役社長 赤堀 肇紀

一瞬のちやく レッドサムライ

～まさか！？人に勝る精度を出す装置！の巻～



Reception Flower

受付に華やかさを添える生け花。

これは、毎週火曜日に伊東さんが生けてくれています。

今回は、2019年2～3月に生けた花の中から、選りすぐりの1点を選んでいただきました。



- ✿ キイチゴ
- ✿ トルコキキョウ
- ✿ サンデリアーナ

主人公紹介

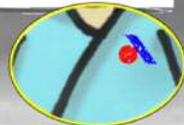


ちょんまげ

粉のことで困っている人を見つけるセンサー。

袴

ロゴ入りの一張羅。もともと白だったが顔料で青く染まった。



刀

相対する粉によって、使用する刀の材質を使い分ける。錆びは嫌い。

飛べる

ストーリー

粉のトラブルによって生き別れになった妹を探している。粉に困っている人を助けていけばいつか妹と再会できると信じて旅をしている。